

André Butzer

minimum

6

JANUARY – FEBRUARY / 2020

**MISTLETOE OF TOKYO
EXHIBITION WORKS**

① André Butzer アンドレ・ブツァー

1973年、シュトゥットガルト生まれ。ゲルハルト・リヒター、ゲオルク・バゼリッツの継承者といえる画家で、中堅ではあるが現代ドイツ絵画の中心的存在。

近年の主な展覧会歴

- 2019年 Metro Pictures, New York
- 2018年 Galerie Max Hetzler, Berlin
- 2016年 hiromiyoshii, Tokyo

| THEME | ミニマム

今回の展示はドイツ人作家のアンドレ・ブツァーの個展です。「ドイツ絵画」と呼ばれるほどに、ドイツの絵画表現は世界に影響を及ぼしています。具象画と抽象画の両方を描き、作家一人で絵画の歴史を網羅するような作品を創作する、ドイツの作家・ゲルハルト・リヒターの後を継ぐのが、このブツァーとも言われています。

また今回の展示のテーマである「ミニマム」という言葉は「必要最低限の要素で最大の効果を生み出す」という意味を持っていますが、展示作品はブツァーの抽象的な作品の中でも、極めてミニマルな絵画を中心に構成されています。さらにドイツの画家というのは、美術史のコンテクスト（文脈）を意識した作品を作ることを重視する作家が多くみられます。これらの作品は、世界のミニマルな美術表現の構図、そして先に述べたように美術史のコンテクストを全て表現している作品といわれています。作品のフォームを基準にして展示されていますが、基本的に鑑賞する際には、作品の順序は関係ありません。

ダミアン・ハーストなどの作品に見られるような、表面を全て単色で塗る絵画は、最もシンプルで、一番効果的に見る者に訴えかけます。また抽象画にさらに一本の線を加える表現行為は、平面に奥行きを持たせ、画面に広がりを感じさせます。それぞれの作品に描かれる線も、太さが異なっていたり、絵が描かれた素材も異なっており、一見同じように見えて、それぞれの作品は違うのです。

極めてシンプルな形に削ぎ落とされた表現＝「ミニマム」は、自分の見方次第で、どのようにも捉えられます。そして、その時の自分の感情や感覚的な変化に伴って見え方が変わっていきます。現代美術の鑑賞の基本は、作品に対する鋭い視点を自分自身の中に持つことです。同じ図柄・連続した作品に深みを感じ、そこに自由な表現を見出すことは、見る側の知識や経験が問われます。決まったフォーマットの中でどれだけ自由に表現できるかというブツァーのミニマル絵画の挑戦は、禅に親しむ日本人の文化とも極めて近いので、私たちがこの作品から学ぶことは多いはずです。

EXHIBITION WORKS FLOOR MAP

